

“里神楽”

伝統を守る若者たち

太鼓と笛のはやしに合わせ、1組の夫婦と天狗と獅子が問答をしながら、酒を酌み交わしてユーモラスなしぐさで踊ります。

これは、稲郷に古くから伝わっている“里神楽”です。村人の安全と

五穀豊穰を祈るとともに、神への感謝の念を込めて祭礼日に奉納されるもので、現在も稲郷青年会（小林一三会長、会員13人）の手で立派に受け継がれています。

この里神楽は、篠座・巖生・木本

にも伝承されています。

市内には、こうした貴重な歌や踊りが世々代々に受け継がれています。

これらのかけがえのない民俗芸能を大切に保存し、次代へ引き継ぐことは、私たちの使命です。

芸術・文化の秋。といっても難しく考える必要はありません。あなたの身の回りにも、きっと関心を誘うものがあるはず。しり込みしないで、気軽に一步を踏み出してみませんか。そこから、さわやかな触れ合いと充実した人生が生まれます。今月は地域に根ざした文化活動を取り上げてみました。

根づく文化活動

手づくり人形劇の講習会

子供らに夢をと心砕く

子供芸術劇場実行委員会と市教育委員会は、8月から「手づくり人形劇」の講習会を開いています。幼稚園や保育所に勤める20～30歳代の女性を中心に、14人が熱心に受講し、今月8日には修了します。

人形の大きさは20センチ余りで、大男や子供・おじいさんをはじめオオカミ・トラ・鬼まで、いろいろあります。1人ひとりが、自分のイメージを生かして自由に作りました。

材料はダンボール紙や古着・古綿など、家庭にある廃品を利用しています。

人形がそろったら、今度は台本づ

くりです。2つのグループに分かれて物語を考えます。

最近では、創作した台本に合わせてみんなで劇を練習するまでになりました。

指導してきた伊藤一視さん（福井市在住）は「初めて手掛けた人がほとんどですから、いろいろと苦労もしたようです。でも、みんな和やかな雰囲気の中で、一生懸命頑張ってくれました。人形も劇も素晴らしい



人形を手に台本を考える受講者

出来栄ですよ」と、目を細めます。

受講者のひとり前田巡子さん（有明町、35歳）は「保母をしているので、以前から人形劇には関心を持っていましたが、実際に取り組んだのは初めてです。やっぱり難しいですね。特に、人形の顔づくりのときは思いどおりの表情が出せず、苦心しました。でも、自分で作ったものだけに何とも言えない愛着を感じます。これから、いろんな機会を利用して子供たちを楽しんでもらえたら……と思います」と、話していました。

1日から3日まで開かれる「市総合文化祭」に、見事な「大野丸」が展示されています。

大野丸の模型に熱中

陽明町の伊織さん

大野丸は、幕末

のころ活躍した大野藩の建造船として知られていますが、こうして模型で再現されたのはとても珍しいことです。

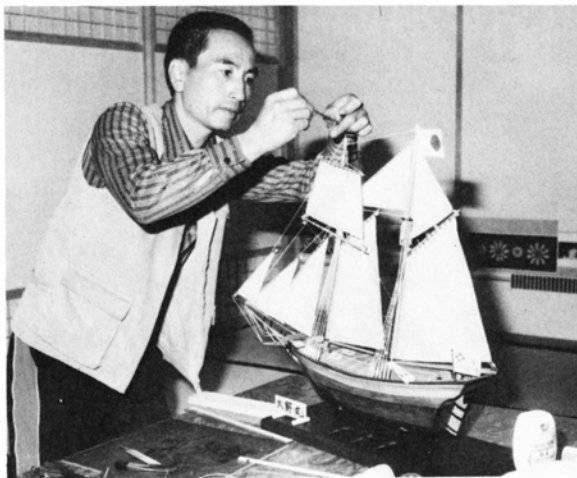
設計してから完成までに10カ月を要したという、この労作を手掛けたのは伊織修さん（陽明町2、36歳）です。子供のころから模型作りが大好きで、これまでに飛行機・船・城などたいていのものには挑みました。

最近でも、1年に1つは精密な模型作りを楽しんでいます。

今回の大野丸は、いろいろな資料を参考にして50分の1の大きさで復元してあります。材料は杉の木・バルサ材・布きれ・タコ糸などです。

「できるだけ本物に近い姿にしよう」と苦心しました。設計に2週間、

船体の骨格づくりには3カ月かけました。分からない部分は書物をひもといたり、三国町の民俗資料館まで足を運んで調べました。根気のある細かい手作業ですが、あれこれと頭をひねりながら一步一步作り上げるのは充実感があって楽しかったです。もちろん、完成したときはホッとしましたけど」と、この10カ月間を満足そうに振り返っていました。



仕上げを急ぐ伊織さん

みんな頑張ってます

民好会

民謡で温かい触れ合い

毎週金曜日の夜、富田公民館からは「ハァー この家旦那様のお屋敷をば見てやれば……」と、民謡の独特の節回しが聞こえてきます。民好会、のみなさんです。

54・55年に公民館の文化講座の1つとして開かれた民謡講座の参加者が集まり、公民館の協力もあって昨年4月に結成したものです。

現在の会員は15人ですが、みんな民謡が大好きでたまらないという人ばかりです。講師の西行サダ子さん（西里）を中心に、和気あいあいの雰囲気の中で練習に励んでいます。

今は青森県の民謡である「俵つみ唄」に取り組んでいますが、これまでに習得した曲は30以上あります。

地区の敬老会のアトラクションには毎年参加しているほか、今年の富田夏まつりでは生音頭を披露して、好評を得ました。

祝宴で披露したところ、とても喜ばれたという会員もいます。年に1回は越中小原節の八尾や郡上踊りの

八幡へも出掛けています。

当初からの会員のひとり松田澄子さん（上野、55歳）は「とにかく、毎週の例会日が楽しみで楽しみで……。温かい触れ合いが何よりの魅力です。

心の支えというか、生きがいになっています。農作業や家事をしながら1人で口ずさむこともしばしば。こ

民謡を楽しむ会員たち



れからもずっと続けたいですし、ボランティア活動などにも生かせたら……」と、笑顔で話していました。

民話の収集進む

文化の里づくり事業

市文化協会（斉藤秀雄会長）と市教育委員会は、市内の昔話や伝説・民話を後世に残そうと、地区ごとに16人の調査員を委嘱して、現在収集活動を進めています。

これは、民謡や童歌を集めた「奥越前の民俗芸能」（52年発刊）に続くもので、文化の里づくり事業の2作目です。2年後には集大成して出版するほか、紙芝居やスライドなどにも活用していく方針です。

米村恵美子さん（本町、60歳）はその調査員の1人

です。「大野にはいろいろな民話が残っていると思いますが、最近では知っている人も少なくなりました。

人づてにお年寄りを訪ね歩いていきます」と意欲的です。

取材する相手はもっぱら70～80歳代の人で、これまでに14人から30編近く集めました。

きょうは、加藤さきさん（篠藤町72歳）のお宅を訪ねましたが、昔のころを懐かしむように「はだか半兵衛、銭亀尾のいわれ、といった話を語り、傍らで米村さんが注意深くノートに書き写していました。

米村さんは「幽霊のあめ、やまんば、などのように一般に知られている話でも、人によって微妙に内容が違ふこともあります。それに「右近次郎の地名のいわれ、や」向島のキツネ、といった初めて聞くような話も見つかったんです。苦労もありますが、それだけにやりがいもあります」と、目を輝かせていました。



取材をする米村さん

考えてみよう、子供とお金、

3冊の小づかい帳

下庄小6年

河合 伸枝さん



わたしは、4年生の夏ごろからお小づかいをもらい始め、それと同時に、小づかい帳もずっと付けています。それで、もう小づかい帳が3冊

にもなりました。

母が「伸枝はもう主婦になっても立派にやっていけるね」とからかいます。でもここまでくるには、めんどくさがり屋のわたしには、なかなかつらいものでした。月末になって、どうしても合わなくなって、母にしかられたりさんざんでしたが、集計したり、計画を立てたりしているうちに、いやでいやでたまらなかつた小づかい帳も、だんだんおもしろくなってきました。

わたしの付け方は、勉強のため、遊びのため、人のため、その他（食べ物など）の物、貯金——の5つに分けてやります。そして、月の終わりには、集計をします。集計では、5つのうち、どれにいくら使ったかを計算します。このやり方は、一目

現代の子供たちは恵まれた環境に育っているものの、一般に過保護で、お金や物を大切にしないことが多いといわれます。

私たちが手本を示し、しっかりとした金銭感覚と生活感を身に付けさせることが大切ではないでしょうか。

市貯蓄推進委員会は、小学6年生を対象に今年も「生活文」のコンクールを行いました。

73点の応募があり、貯蓄や小遣いについていろいろな視点で書かれています。今回は、特選に選ばれた2点の作品を紹介します。みんなで子供とお金について考えてみましょう。なお、作文は原文のままです。

でわかるし、簡単なので、付けやすくして続けやすいのです。

そんな小づかい帳でわかった問題もあります。それは、わたしは、お金を使う回数は少ないけれど、1回1回にたくさん使い過ぎるということです。例えば、友達のたん生日にあげるものを、300円か400円ほど計画して店に行くと、自分も少し、という気持ちが出てしまって、知らないうちに1,000円がなくなっていたということもあります。そんなことが続き、気が付いてみるとさいふの中は、100円玉が1個、10円玉が6個、1円玉が4個で、半月以上もがまんしたこともあります。

それで、今では、お小づかいをあまり使わないですむように、工夫することが出てきました。

アイスクリームやジュースの代わりに、果物をこおらせたりして食べます。その方が、いろいろな薬品が入っているお菓子よりもずっと栄養があって体も丈夫になるので、一石二鳥だと思います。そして、今からしようと思っていることは、買い物に行く前に何と何をどれだけ買うか決めて、それに必要な金額だけを持っていくということです。

また、小づかい帳から、その時その時の自分の性格がよくわかります。

付け初めの4年生のころは無計画で、他の子が持っている、いらぬのについて買ってしまう、5年のころは、計画がうまくたち、夏休みの宿題にも役立った——などです。

こうして見てみると、たった3冊の小づかい帳が、自分をよくし、また悪いところでも気付かないような細かい部分が少しずつわかってきます。そして、それを直していけば、お金がうまく使えます。

それでわたしは、お小づかいをもらう限り、ずっと小づかい帳を付けようと思っています。

そのほかの「生活文」入賞者

特選以外の入賞者は次のみなさんです。（敬称略）

〈入選〉 長谷川美紀（下庄小）川端弘毅（同小）松山恭子（森目小）宮村美起代（蔵生小）常見奈緒子（富田小）

〈佳作〉 中森明寛（有南小）坪井秀樹（下庄小）中山浩司（同小）丸山明美（有南小）千田有利子（同小）中道貴子（有西小）

貯金へのきっかけ

有終南小 6年
黒谷 英光くん

ぼくの部屋の机の上には、ぼくが箱でつくった貯金箱がある。なぜ貯金箱を買わなかったかという貯金箱を買ってしまったら、その中に入れるお金がなくなってしまうと考えたからだ。だから、今でもその貯金箱を使っている。



ぼくの貯金の仕方は、100円もらったのならば、その半分を入れるようにしている。

けれど、夏になると余計なアイスクリームなども買ったりして貯金ができなかったりした日もあったので気をつけなければならないと思っている。

ぼくが貯金をする前、つまり3年生までぐらいのぼくのお金の使い方は、非常に良かった。例えば、お母さんからこづかいをもらって、「いっぺんにみんなつかったらだめよ」と言われても、もらったお金はすぐにつかってしまって貯金などは考えたことがなかった。

しかし、3年生のある日、友達のお父さんが「おーい。少しアルバイトせんか」と、トラックの窓から呼びかけてきたのだ。ぼくらは、大きな声で、「うん。やる。今行くよ」と言って自転車でトラックの後をつけた。すると木がたくさん積んである所に来た。ぼくらの仕事は、その木をトラックの上に運ぶことだった。

ぼくらは、汗をシャツでふきながら、そのたくさんの木を運んだ。ど

れもみんな、大きな木だったので、トラックに乗せる時は、とても苦労した。

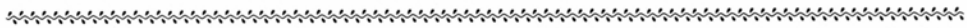
何本も何本も運んで、2時間ぐらいたった。するとおじさんが、「みんな集まって」とみんなを呼び、200円ずつ渡した。ぼくもちゃんともらった。

それから、みんなといっしょにおかし屋へ行った。みんなさっきもらったお金で、いろんな物を買ったのだが、ぼくはなぜか、その200円を使うことができなかった。

そして、家に帰り、その200円を箱に入れてとっておいたのだ。その箱というのは、今のぼくの貯金箱のことだ。だからこれが、ぼくの貯金の始まりだったのだ。

3年生のあの日がなかったら、ぼくは今でも貯金をしていなかったかもしれない。だからとてもいい経験をしたなあと思っている。

そして、これからの貯金は、もっとうまくコツコツとためていきたいなあ強く心に思っている。



省資源・省エネのポスター一

藤井君らが特選に

市貯蓄推進委員会が小学4・5年生を対象に募集した「省資源・省エネルギーポスター」の入賞者も決まりました。

このコンクールは、暮らしの中から無駄を省くとともに限りある資源

を有効に使おうと、今年初めて行われたものです。

全部で116点の作品が寄せられ、審査の結果、特選に藤井隆道くん(有西小4年) 島田陽子さん(有南小4年) 馬淵泰三君(富田小5年)の3

人が選ばれました。

そのほかの入賞者は次のみなさんです。(敬称略)

〈入選〉 稲葉友美(有南小) 山田智子(同小) 広田由紀子(同小) 大久保大希(有東小) 宝居ルミ(同小) 伊藤美由紀(上庄小) 善藤寛子(同小)

〈佳作〉 室田行正(有南小) 山川奈緒子(有西小) 藤原幹昌(乾側小) 村西由美子(上庄小)

有終西小 4年

藤井 隆道くん



あなたはしてますか省エネルギー

有終南小 4年

島田 陽子さん



水のムダをなくそう

富田小 5年

馬淵 泰三くん



すてていいの？

広域基幹林道法恩寺線

64年開通を目指す

3200ヘクタールの山林が恩恵

県が進めている、当市と勝山市を結ぶ広域基幹林道法恩寺線の新設工事は順調に進んでいます。

勝山市の暮見と当市の南六呂師を結ぶもので、法恩寺山と経ヶ岳の中腹を通ります。

総延長は26.4キロメートルで当市側7.6キロメートル、勝山市側18.8キロメートルです。

道路幅員は5メートル。総工費は21億円で、64年には全線開通を目指しています。

着工したのは勝山市側が早く、48



道造りが進む法恩寺線（後方は経ヶ岳）

年から始められています。暮見からは幅員3～4メートルの既設林道があったため、この間約4.1キロメートルを3億4,000万円余りをかけて幅員5メートルに改築しています。これと併行してこれまでに約4億5,000万円をかけて7.3キロメートルを開設しました。

当市側は50年から本格的な工事にかかり、今年度までに4億1,000万円をかけ、約53%に当たる4キロメートルが完成しています。

この林道は法恩寺山と経ヶ岳の両

山系の標高1,000メートル近くの高さを貫くもので、市内では最も高い林道になります。

これが完成しますと約3,200ヘクタールに及ぶ広大な区域の山林が恩恵を受けることになり、21万立方メートルの豊富な森林資源が生かされることになるほか、市民の休養やレクリエーション等にも利用されることになります。

さらに、将来はこの基幹林道から支線を作り山林の有機的な活用が図られることとなります。

越前大野駅の貨物取り扱い

今月15日から廃止

小荷物はこれまでどおりです

国鉄越前大野駅の貨物取り扱いが今月15日から廃止されることになりました。

国鉄の赤字経営の原因になっている貨物輸送問題を解消するため、金沢鉄道管理局は今春から当市と市内の主な荷主20社に対して、廃止の同意を求めています。8月ごろまでに荷主の同意を得、その後は市に対して同意を要請していました。

一方、9月初めに開かれた市議会交通対策特別委員会でも「貨物取扱量が激減しており、大野駅の貨物廃止が経営収支を向上させるのであれば、廃止もやむを得ない」との結論を出していました。

これを受けて市としては①実情に

見合ったダイヤの改正②プラットホームの屋根の延長と駅前と駅裏を結ぶ歩道橋の建設③駅の自転車置き場と駐車場の整備——などを積極的に進めることを了承のうえ、10月1日付で同意しました。

同駅の貨物取扱いは、35年12月の同線開通と同時に始められ、当市で生産された米をはじめ、農業用肥料や和泉村中竜鉦山の鉦石などを輸送。ピークの45年には1日221トンの取扱量がありましたが、その後はトラック輸送が増え始めたため、56年には1日53トンと4分の1に激減、赤字の一因になっていました。

なお、小荷物についてはこれまでと同じように同駅で取り扱われます。



大野駅構内の貨車

「愛のひと声」で

非行防止

青少年愛護センター補導委員



非行を防ごうと活動を続ける補導委員

子供たちが心身ともに健康でたくましく育ってほしい、これは、すべての親の願いでしょう。しかし、こうした親の気持ちとは裏腹に、年々少年の非行が増え続けています。奥越青少年愛護センター大野分室では次代を担う子供たちを非行から守ろうと、校下別に80人の補導委員を委嘱。街頭補導を中心にたゆまぬ活動を続けています。

多い交通違反・校則違反

今春から大野・勝山地区広域行政事務組合内に奥越青少年愛護センターが発足したのに伴い、市内の補導委員もこれまでの52人から80人に増員されました。

2人1組になってほとんど毎日、午後と夜に公園や商店街などを巡回しています。

非行青少年を捕まえるためではなく、悪の道に入らないように導くことが目的です。また、善行者の発見にも努めています。

「自転車の2人乗りは駄目ですよ」「空き缶はくずかごに入れようね」「夜遊びはやめて、家に帰りましょ

う」と、やさしく親しみを込めて話しかけ、子供の心の中に入っていきます。

昨年度、市内で街頭補導を受けたのは709人です。今年も5～9月で既に474人になっています。

最も多いのは、信号無視や自転車の夜間の無灯火、路上での遊び——などの交通ルール違反です。次に、ゲーム場や喫茶店へ出入りするといった校則違反が目立っています。そのほか、不健全娯楽・盛り場はいかい・喫煙・怠学などもあります。

一方、警察の補導では万引きや自転車・オートバイ盗みなどの遊び型といわれるものや、シンナーなどの薬物乱用が中心を占めています。



家庭・学校・社会が 手を取り合って

補導委員の副会長をしている田中秀子さん（高砂町）は「私たちの活動は強制力がありませんから、「愛のひと声運動」が中心なんですが、最近は注意しても素直に『はい』と返事できる子が少なくなったようです。反発したり、無視する子もいてもどかしく思うことがあります。それに、非行を目撃しても、見ぬふりをする大人がいるのはとても残念です。親はもちろんのこと、社会全体が襟を正すことが必要ではないでしょうか」と、訴えています。

青少年は体は大人並みでも、精神面では不安定な時期にあります。

近年の非行は、享樂的な社会風潮を反映しているともいえますが、家庭での親子関係としつけは大丈夫でしょうか。甘やかし過ぎたり、放任したりということのないように十分な心配りで接したいものです。

無論、家庭教育だけで非行がなくなるものでもありません。大切なことは、家庭・学校そして地域社会が手を取り合い一体となって、地域ぐるみで非行から守る努力をすることです。

健康メモ

腰痛を防ごう

～成人病検診の結果から～

市では大野保健所とともに、毎年成人病検診を行っています。

検診の結果をみますと、特に異状がなくても“不定愁訴：つまり、腰痛・頭痛・肩こり・めまい・手足のしびれ——などの症状を訴える人がかなり見受けられます。

この“不定愁訴”は肉体的過労や精神的疲労（気苦労）、食生活の偏りなどが誘因となって症状が表面化した状態といえます。

今月は“不定愁訴”の1つの腰痛の予防について紹介しましょう。

予防体操で鍛練を

腰痛をなくすためには①同じ姿勢を長時間続けない②背すじを伸ばし

正しい姿勢で歩く
③腰痛予防体操などをして腰を鍛練する④中腰で重い荷物を持ったり、急激に腰を伸ばし過ぎない⑤慢性の痛みのある人は温めたり、座るときには正座をしないで座ぶとんを2つ折りにしてシリの下に敷き、あぐらをかく——などに注意してください。
手軽にできる腰痛予防体操を紹介しますので、腰痛の緩和や農作業、急激なスポーツの疲労回復に、ぜひ行ってください。

保健センター 野田保健婦



適度な体操を忘れずに

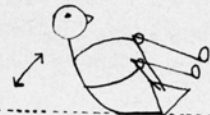
腰痛の予防体操の一部

(A) 腹筋を強める



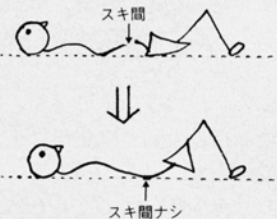
- ①足を立て、頭を上げる程度から始め、徐々に上半身を起こす。
- ②上半身をひねるなど工夫を取り入れる。

(B) 腰・背の筋肉を伸ばす



- ①両ひざを抱え込んで頭を上げる。
- ②痛みのひどい人は片足ずつ交互に抱え込む。

(C) 骨盤をまわす運動



- ①両ひざを立て、息を吐きながら腰を引っ込め腰のスキ間を床の方へ押しつける。
- ②ヘソと肛門に力を入れ、骨盤を顔の方へ向けるつもりで行う。



⑤6 打波川

一ノ峰あたりに源を発する打波川は、九頭龍川の支流で、北陸電力勝原第一発電所のところで本流と合流します。発電所の対岸の岩壁は東尋坊のそれよりも高いといわれています。

この打波川は美濃俣谷川・亥向谷川・谷間川など、奥深い30余りの支谷から流れ出る水を合流しています。

昭和36年に福井地震にも匹敵するといわれる北美濃地震と第2室



戸台風によって大打撃を受け、なかでも美濃俣谷の損害が最も大きく、流出した土砂の量はものすごいものでした。

翌年から県では、大規模な復旧にかかり、現在も治山治水工事があちこちで続けられています。

かつては、イワナは釣っても釣りきれない程いた谷川も、度重なる災害やコンクリートの大きい砂防ダムの建設によって、その数が激減しました。北美濃地震のあと川水の地下浸透がひどく、水量がより減っていることも、もう一つの原因と思われます。

炭酸冷水で知られる鳩ヶ湯までは道路も舗装され、市営バスが冬期間を除いて走っています。そこから小池に至る道は、デコボコ道で、川の中には大きい石や流木があちこちに見え、荒々しい感じがします。刈込池に通ずる自然研究歩道のあたりは、すっかり紅葉していました。(T生)



6・7日に農林業祭

収穫の喜びを味わい併せて農林業について考える“第14回市農林業祭”は、6・7日の両日市民会館を主会場にして開かれます。主な内容は次のとおりです。おそろいでお出かけください。

〈6日〉乳用こ牛品評会 (A 9.00 市森林組合倉庫前広場) もちつき(A 11.00 屋外広場)

〈6・7日〉農林産物品評会(A 9.00 大会議室) 青果物即売会 (A 9.00 屋外広場) お祭り広場 (A 9.00 駅東公園)動物に親しむ広場(A 9.00 駅東公園) 近代化展示コーナー (A 9.00 駅東公園) 振興資料展示コーナー (A 9.00 中会議室・談話室) 暮らしのコーナー (A 9.00 第1・2会議室) バザーコーナー (A 9.00 ホワイエ)

〈7日〉米ふかし (A 10.00 屋外広場) ミニSL (A 10.00 駅東公園) お祭りショーと式典 (A 10.00 大ホール)

青少年の森を開放

奥越青少年の森では11月7日(日)午前9時～午後4時、施設を無料開放します。

ご家族や職場の仲間、ご近所の方などで楽しい計画を立ててご利用ください。

特に計画をお持ちでない方のため、同青少年の森では、周辺の地図やハイキングコースの見取図などを用意します。また、屋内では卓球・バ

ドミントン・なわとび等の軽スポーツコーナーをはじめ、薬草の薬湯試飲コーナー、薬草風呂などを準備します。

詳しくは同青少年の森(7-1321)へお問い合わせください。

援護巡回相談にどうぞ

軍人恩給や戦傷病者、戦没者遺族等の援護、叙位・叙勲、未帰還者の調査、旧軍人・軍属等に関する巡回相談が、11月10日午前9時30分～午後3時、有終会館で開かれます。疑問をお持ちの方はお気軽にどうぞ。

奥越駅伝競走大会



第19回奥越駅伝競走大会が11月14日(日)、市内を一周するコースで開かれます。全長45.7キロメートルを7区間に分けて競われます。出発は午前11時。主なコースは次のとおりです。

市役所～西部バイパス～中丁～大門～矢～中津川～森目～土打～松丸～大月～伏石～柿ヶ島～中休～友兼～稲郷～榎～阿祖祖～下黒谷～飯降～市役所です。

選手が力走するときは沿道の方は声援をお願いします。

小規模企業の 共済制度にどうぞ

小規模企業共済制度は国がつくった事業主の退職金制度です。

加入できるのは常時使用する従業員が20人以下の個人事業主や会社・企業組合・協業組合の役員です。

月々、掛け金を納めることによって事業をやめたり、役員を退職したときなど第一線を退いたときに、法律で定められた共済金が支払われます。掛け金は全額が小規模企業共済等掛け金控除として、課税対象所得から控除されます。

さらに、共済金等は退職所得とし

スマイル

『別名』

かぐだけ
みるだけ
さわるだけ ーまっただけ

て取り扱われますので、控除額が大変大きくなっています。

加入者には積み立てた掛け金の範囲内で貸し付けが受けられる一般貸付と、傷病災害時に経営安定を図るために必要な資金を共済金の範囲内で貸し付けが受けられる傷病災害時貸付があります。

詳しくは市商工観光課(6-1111内線291)か商工会議所(6-1230)へお問い合わせください。

国の進学ローン



これまで高校・大学に進学する人を対象にした国の進学ローンの取り扱い扱いは1月1日からでしたが、今年

から11月1日からになりました。

〈融資額〉1人につき50万円以内
〈返済期間〉進学する学校の修業年限内(最長4年)

〈利率〉年8.4%(利率は変わることがあります)

〈保証人〉1人以上(保証基金を利用する場合は不要)

〈返済方法〉毎月元利均等返済(希望により、ボーナス月増額返済も併用できます)

〈取扱機関〉国民金融公庫と表示のある金融機関でどうぞ。

生活用品交換情報

〈譲ります〉子供用自転車、冷蔵庫 スキー靴(24センチ)、電気ストーブ、電話台、なべ、陳列ケース、コンピラック、メリーゴーランド、歩行器
〈譲ってください〉二段ベッド、子供用自転車、婦人用自転車、オートバイ250cc、ラジオカセット、カラーテレビ

市民カレンダー

11月10日～11月24日

10(水)	結婚相談	10.00～15.00	有終会館	行政相談	13.00～15.00	上庄公民館						
11(木)	世界平和 記念日 心配ごと相談 育児相談	9.00～12.00 13.30～15.00	市役所 阪谷公民館	法律相談	13.00～16.00	商工会議所						
12(金)	今月の納税 国民健康保険税 第3期分 11月30日までに納めてください。											
13(土)												
14(日)												
15(月)	七五三 金融相談	13.00～16.00	商工会議所									
16(火)	社会保険年金相談	10.00～15.00	織物工業組合	1歳半児検診	13.00～14.00	保険センター						
17(水)	結婚相談 糖尿病患者の つどい	10.00～15.00 13.30～16.00	有終会館 保健センター	経営相談 麻しん	13.00～16.00 13.30～14.30	商工会議所 保健センター						
18(木)	心配ごと相談 3歳児検診	9.00～12.00 13.30～14.30	市役所 大野保健所	交通事故相談	10.00～15.00	市役所						
19(金)	市営バス白山線が運休 大野三番と鳩ヶ湯を結ぶ市営バス 白山線は、11月21日(日)から冬期 間運休に入ります。運転再開は来年 4月中旬の予定です。											
20(土)							農業結婚相談 行政相談	13.00～16.00 13.00～16.00	有終会館 有終会館			
21(日)							家庭の日					
22(月)	献血 行政相談	10.00～15.00 10.00～15.00	市役所 富田公民館	労務相談	13.00～16.00	商工会議所						
23(火)	勤労感謝 の日											
24(水)	インフルエンザ 育児相談	13.30～14.30 13.30～15.00	保健センター 富田公民館	結婚相談	10.00～15.00	有終会館						

発行 福井県大野市

編集

秘書広報課(電話 01111)

印刷 ㈱松浦印刷



十一月一日は灯台記念日。日本で初めて洋式の灯台が三浦半島の観音崎に、明治元年のきょう着工された。それから百数十年の長い間、ここを航行する船が安全に航海できるような光をおくり続けてきたわけだ。▼中国の古書によると「灯台は人を照らして、おのれを照らさず」とある。灯台の周りは明るいですが下はまっ暗だ。「灯台もと暗し」である。「手近なことはかえってわかりにくい」という意味のコトワザである。これは家庭用の照明器具として使った灯台(燭台)から生まれたものだ。と聞く▼十一月は文化祭ともいろいろな行事の多い月である。なかでも幼児が無事に成長したことを喜び合う「七五三」の祝い日がある。男の子も女の子も三歳になると髪をのばし、その祝いを「髪置」と言い、五歳になる男児は初めて袴を着けて正装し「袴着」と言った。七歳の女児は紐つきの着物をやめて帯を締める「帯解」の式をした(金田一春彦)▼今日では単に着飾ったお宮参りの形式と親の虚栄だけの「七五三」となってしまうた感もある。幼いわが子が今どんな育ち方をし、将来どのように育っていくだろうか。と本当に考えているだろうか▼保育所や幼稚園のころは素直でよい子だったのに大きくなるにつれて手に負えないと、よく嘆く▼溺愛のためにアシタが見えなかったのかもはないだろうか。(Y生)